

しんせいき 新生紀 90号

CATHOLIC SOCIAL ACTION CENTER IN KOBE

発行：カトリック社会活動神戸センター

代表：山野 真実子

住所：〒650-0004 神戸市中央区中山手通1-28-7

電話：078-271-3248 FAX：078-271-3280

E-mail: sinapisk-swc@r5.dion.ne.jp

2021年12月10日 発行

山野 真実子

今年は例年になく早い木枯らし1号が吹いたせいで、六甲の山並みもいつになくユックリと紅葉が進み、炊き出しの往復に利用している市役所前的大通りから北への一直線はとても美しい並木になっています。同じようにセンター事務所前の老桜も残り少なくはなりましたが、まだ赤や黄の葉が残り、風に舞いながら冬にもかかわらず晩秋の光景を楽しませてくれます。毎年この美しい落ち葉が箒でかき集められて捨てられるのが勿体なく、拾い集めては通りに面した教会掲示板の中に敷き詰め、クリスマスの訪れを伝えるお知らせを作っていたのですが、コロナに明け暮れた2年間は何故か掲示板に心が向かず殺風景なものしかできませんでした。そしてまたオミクロンの名が報道される今日この頃ですが、第5波のデルタを乗り越えたという安堵感が掲示板へと向寄せたのでしょうか、今年は赤や黄、茶色や虫食いなど、とりどりの葉っぱを敷き詰めることができました。が、肝心なメッセージ性に乏しく、通りを歩く人々に一体何を伝えられるのだろうかと自問するばかりになってしまいました。

社会全体がこの微細なウィルスの出現に翻弄され、寄り集まって支え合う人々の暮らしを大きく変えてしまいましたが私たちのセンター活動も例外ではありませんでした。こんな時だからこそ、私たちの活動はもっとフレキシブルに生き生きとありたかったのに残念でなりませんが、滞日外国人支援や高齢者支援ではメンバーが固定していることもあり、連絡を取り合うことも可能で現状を伝えることができたのですが、メンバーが固定していない野宿や生活困窮する人たちへのお知らせの充実はなかなか捗りませんでした。当初、炊き出しの場所に行かなければ分からないという何ともお粗末な、申し訳ないような手段から始まったのですが、活動を再開する度に手段を整え周知することができるようになりました。ここで登場したのが「みんなの掲示板」でした。皆さんのお近くにもあるかもしれません。駅周辺や人々が行き交う場所にあまり気づかれることなく立っています。毎週土曜日の午後3時頃に張り替えるという約束で私たちを繋いでくれました。人に物事を正しく伝えるということはなかなか難しく、気もちや思いはましてです。

私もこの「新生紀」をお読みくださる皆さんにどれ程のことをお伝えすることができたのか冷や汗ものですが、ポチポチ交代の季節が来ました。2年前老桜に若枝が接がれ、大丈夫かなと心配しましたが、雨にも負けず風にも負けず、夏の日照りにも負けずに育っています。小さな頭が煮詰まって行き詰ったときも、理解されずに息苦しかったときも、また大声で叫びたくなるくらいに嬉しかったときにも黙って受け止めてくれたと思っていた老桜は、自分を見つめ直す、私自身だったのかもかもしれません。来年の4月からは一人のボランティアに戻ります。ここに初めて来て受付がかりをしたように。今までのすべての事に感謝です！ありがとうございました。

“誰も置き去りにされない世界”の実現を願いながら・・・。

『コロナ第5波以降の

小野浜事情』

10月1日から「緊急事態宣言」が解除され、小野浜の炊き出しもタイムラグが生じることなく10月2日土曜日から再開しました。再開を待ちわびていたのは利用者の方たちだけではなく、“長い間、小野浜に行けていないけど、あのおじちゃんは何にしているかしら？あのおばちゃんはどうしているかしら？”と心配していたボランティアさんも同じでした。

久しぶりの炊き出しにリキの入った初日のメニューは「中華丼とゆで卵」そしてセロファンの小袋に可愛く入れられたミカンとブドウが提供される豪華な再開となりましたが利用者はいつもの月初と変わらず65名。メンバーが固定しない炊き出し現場では周知の方法が難しく、巻頭言にもあるように「みんなの掲示板」を使っての連絡方法にしては、みなさん、来られた方かなという感じです。ところが回を重ねても、何か以前とは異なる雰囲気を感じたのは私だけだったのか、なかなか元のような空気感が戻っていません。長らく取り敢えず食べることにだけ特化した炊き出しは、集うという色合いをなくし、「お弁当受け取ったら、すぐ帰って下さいねえ」や「お代わりはないので、食べたらずきに解散してくださいねえ」という素っ気なさがいまだ漂っているようです。“炊き出し”は食べることを通して暮らしの取り戻しをする入口。ここを大切にしなければ、炊き出しの意味を見失ってしまいかねません。

12月に入り、日を追うごとに利用する人たちが増え、100人を超える日も。ここに来ると、ユックリご飯が食べられ、お茶でも飲んで一服できる、そんな場所に早く戻りたいものです。(やまの)

10/2～12/7 迄の配食数:2321食
ボランティア数:258名



『カトリック正義と平和全国大会 2021 大阪大会』

分科会 ふっこうのかけ橋～フクシマ 保養プログラムから見たこと～



野村季里

11月22日、23日の2日間にわたりカトリック正義と平和全国大会2021大阪大会が開催されました。コロナ禍での開催ということで、分科会はすべてZoomによるリモートで開催されました。

カトリック正義と平和全国大会が大阪教区で開催されるのが決まったのは2019年のことだったと思います。その頃はまさか世界中がこのような状況になるなんて想像もしていませんでした。

リモート開催というのは大会そのものも分科会も初めての試みです。まずはZoomを知ることから始めなくてはいけない人がたくさんおられました。私たちも例外ではありません。何度もZoom研修に参加して、また各家から繋いでみたりして練習を重ねました。つながらない、映らない、聞こえないと数々の問題を乗り越えてなんとか使いこなせるようになったのは本番ギリギリのことでした。正直なところ私は今でも「なんとなくZoomできた？」というレベルです。



今回は4つのステップ中心に2日間のプログラムが構成されました。

ステップ①See 理解する②Listen 聴く③Share 分かち合う④Act 行動するの4つです。

分科会「ふっこうのかけ橋」は活動の10年間で見てきたこと、感じたことを通して福島の実態を知り今後の支援のあり方を模索してゆきたいと企画しました。

参加者申し込みは4名でした。うち一人が欠席で個別にお声掛けした方々が数名参加され、1日目の参加はスタッフを入れて14名ではじまりました。

開会式のあと、10年のあゆみを写真やメッセージでまとめた動画を視聴しました。参加した子どもたちの笑顔、たくさんのボランティアの方々との様子など10年間のなつかしい映像が流れました。メッセージを送ってくれた子どもたちの成長にはただただびっくりしました。

その後、片柳神父さまのお話をお聴きしました。

神父さまはこの日の1週間ほど前に福島へ赴かれ、今の様子を実際に見て写真に撮りお話をしてくださいました。



10年前、福島を訪問された時にお母さんたちの不安な気持ち、子どもを外でおもいきり遊ばせたいという思いをお聞きになり神戸に招くことはできないかと青年たちに呼びかけられ「ふっこうのかけ橋」が始まりました。それから10年の歳月が流れ福島市内では部分的にはホットスポットはあるものの生活はもとにもどりつつあるようでした。

その反面双葉町では駅はきれいになっても住民は戻ってはいないようで、震災当時のままの家屋や空き家が目立っているようでした。

南相馬でも小高区などはまだ若い人は戻らないということですが、原町には小学生の時に「ふっこうのかけ橋」に参加していた女の子が福島市から就職で移り住んでいるということで、みなさんととても喜ばれているという報告もありました。

最近では震災遺構や伝承館などが整備されて高校生がスタディツアーで訪れているということもお聴きしました。

神父さまのお話を聴いたあと自己紹介を兼ねて簡単な分かち合いをしました。カリタス南相馬の方から九州で開催されていた保養プログラムの主催者が南相馬を訪れ、参加者と同窓会のような楽しいひと時を過ごしたというお話がありました。カリタス南相馬の方はコロナが収束してボランティアの受け入れができるようになったら来てくださいと仰ってくださいました。

私は「ふっこうのかけ橋」継続の理想形として、子どもたちが高校生大学生になったらリーダーとして参加してずっとつながってゆくということを目指していましたが、今回神父さまのお話や将来の夢や今頑張っている事を語る子どもたちのメッセージを聴き私たちが出かけに行くということも必要だと気づかせていただきました。

今後は双方向に行き来するかけ橋を目指してゆければ思いました。

その後の祈りの集いでは善きサマリア人のたとえが朗読されました。共同祈願を唱え1日目のプログラムは終了しました。

翌23日は分かち合いが中心です。前日より参加者は減りましたが、和気藹藹とした雰囲気でした。分かち合いをすることができました。

前日からご参加の松本教会の方は保養という言葉に興味を持ってご参加されたということでした。遠方にお住まいの方も参加できるリモート開催の利点を再確認しました。

そして最後のステップでは2日間を通して自分はどう行動するのかを考えました。漠然と考えてみた人も、はっきりとした答えが出た人もありますが、自由にチャットで発表し閉会ミサのエンドロールに流していただきました。

それぞれが自分のできることを模索した2時間でした。

全分科会参加者は延べ1000名、海外からの参加もあったということです。

今回の正義と平和全国大会は初めて尽くしのことで何かと戸惑うことが多くありましたが、今後の開催でもリモートを併用しての開催を考えても良いと思いました。

昨年、今年と「ふっこうのかけ橋」はコロナ禍で開催できない状態が続いていますが、10年の節目を迎え、この度の分科会開催と同時進行で記念誌を作成しています。クリスマスにはご覧いただけると思います。

最後になりましたが、分科会開催、記念誌発行にあたりまして動画作成、Zoomの技術的なこと、写真提供、メッセージをお寄せくださった方々、その他ご協力くださった方々に心より感謝いたします。

『 東京への郷愁/入学試験 』

ねこ永田

なん十年もの昔、わたしは自分の希望ではなく、両親が望んだ小学校入学試験を経験した。現在のお受験と異なり、入試前夜に母から明日試験を受けに行くのよ、お風呂に入ってきれいになって行こうねと言われた。試験が何なのか判らなかつた子供だ。しかも試験前夜に親から聞かされる。なんとのおんぴりした時代だったか。

こざっぱりしたワンピースを着、母もおでかけの着物で、まるで受験には似つかわしくない外出気分で学校の門をくぐった。大きくて、外国へ来たみたいと、外国が何なのかも知らないのに、そう思った。矛盾だらけだが、大きい建物に感動したってわけ。

待合室の入り口で、大声で泣いて母親にしがみついている子供の声に、後ずさりした。待合室では、子供と同伴の親は分けられ、子供は一人で待たされた。子供と別れた親は、別室で面接を受けた。受験生は子供だけでなく、親も受験生だった。おかあさんも試験を受けたのよ、と帰り道でそう話してくれた。

不安になって親を呼ぶ子、しゃくり上げて泣く子、黙って坐っている子、子供の様子もいろいろだった。わたしは、名を呼ばれて別の部屋へ入っていく子供らが何をしているのか、何が起きているのかを考えて、少し落ちつけなくなっていた。深い落とし穴に落ちて、穴から這い上れない内に、辺りが暮れてきてだれも助けにきてくれない。怖い。でもこの部屋は、落とし穴ではない。怖くて、もっとドキドキしたら、ここから逃げよう、逃げようと決心したら逃げられる。そうしよう。そう気持ちを固めて少しおちついた。そう思い込むまで長い時間だったように感じたが、逃げる前に名を呼ばれた。

「はい」と澄んではっきりしている自分の声に自分が驚いてしまった。

案内された別室へ入ると、オジサンが三人坐っていて、向かって右端のオジサン（ホントは、中年の試験官だった）が、ココへ坐ッテクダサイと椅子を指差した。大人に返事をする時、「うん」ではなく「はい」と応じるようにと父から教えられていたので、多分、考えもなく「はい」と返事をし着席した。

わたしの前に長机があり、右端の先生とその隣の先生の間に、かなり大きいピーカーが置いてあった。

ピーカーの中には水に浮いた黒い塊りと底に沈んだ塊りが入っていた。

先生が浮いている物は何か、沈んでいる物は何かと質問した。浮いているのは炭。沈んでいるのは石炭と答えた。どうしてそう考えるのかという質問。軽い物は浮く、重い物は沈むと答えた。なぜ浮いている物が炭、沈んでいる物を石炭と思うかと重ねて質問。両方とも黒い。沈んでいる物は硬そうに見え、浮いている物は縦に（割れ目）線があると答えた。ピーカーに上蓋が乗っていたので触れられないが、指で触れれば判るんだけどナとピーカーの中を見ていると、先生が、なぜ軽い物は浮くのでしょうか、重い物は沈むのでしょうか？即答。わかりません。

心の中では、葉っぱでも木片でも浮いて流れるジャナイ？重い石ころは流れの下に沈んでるジャナイ？理由（わけ）は知らないよ。

次に丸テーブルに行くようにと言われ、先生の視線をたどると、大きい丸テーブルの上に画用紙、クレヨン、細い竹棒と糊が置いてあった。オジサン先生が、日の丸の旗を作ってください。赤いクレヨンで円を描き、円が大きすぎて、ギシギシと塗りつぶすのに手間どったが、制限時間はないらしく、糊をたっぷり画用紙につけ、ぐるぐると竹棒に巻いて出来あがり。この辺りで、なんとなく帰りたくなった。

次がある。先生とお客さんごっこしようと、丸テーブルから離れた畳二枚敷の場所へ移った。先生がお客さん、わたしはお母さんのつもりでママゴト道具が並んだ位置へ坐った。

先生は、ガラガラと声で戸を開け、ゴメンクダサイと声をかけた。三つ指はつかなかったが、イラッシャイマセと迎え、どうぞお上がりください。お客さん先生は靴を脱ぎ、正座。急須から茶を注ぎ、お客さん先生の前へだす。茶を飲むとアリガトウで、お客さんごっこは終わった。

ピーカー、日の丸作り、お客さんごっこが、試験だったと認識したのは、以後時を経てからだった。

合格。セーラー服、襟にえんじの線、白いくつ下、革靴。ランドセルもえんじ色。

理科室、実験室、その奥のくもの巣だらけの部屋、絵画室、食堂は高等学校生適用で作られていた。

入学試験を今もって忘れない。郷愁であろうか。

～ お知らせコーナー ～

★神戸・越年越冬のお知らせ★

今年の越年越冬は縮小して行われます。
ボランティア募集はしていません。

'21年12月28日(火)～22年1月4日(火)

場所：東遊園地（神戸市役所南端）

主催：越年越冬実行委員会



*詳しくは『神戸・越年越冬のお知らせ』の
チラシをご覧ください。

★寄付・賛助会について★

当センターの活動は皆様のご支援によって
支えられております。今後とも当センターの活
動にご理解をいただき、ひとりでも多くの方が
必要な支援を受けられますようご寄付、または
賛助会へのご加入をお願い致します。

◎一般寄付および賛助会員費の振込み先
郵便振替口座 00910-5-141408
「カトリック社会活動神戸センター」

※ 同封の払込取扱票は発送作業の都合上、すべての
の発送先に毎回同封されています。ご了承のほど、
宜しくお願い申し上げます。

神戸地区社会活動委員会

★シナピス神戸より★

神戸地区のHP「つながり」のアドレスです。

<http://catholic-kobe.org/>

*センターの活動も紹介されています。

★物資倉庫より★



この1年も、物資提供にご協力頂き、本当に
ありがとうございました。来年もよろしくお
願いいたします。

☆ 必要な物：

- ・毛布、寝袋、リュックサック
トランクパンツ（Lサイズ）、
くつした、タオル、石鹸、
T字型使い捨てかみそり、
シャンプー（詰替え用）
トイレットペーパー、ポケットティッシュ

- ・泡ハンドソープ（詰替え用）
- ・食器用洗剤（詰替えOK）
- ・食品用ラップ、紙コップ、割りばし
（夜まわりのおにぎり、みそ汁用）
- ・使い捨て貼るカイロ
- ・カップラーメン、レトルト、缶詰類など
（現物支給用）
- ・コーヒー、スティックシュガー、お菓子
- ・切手（使用可能なもの）

* 特にお願ひ!!

毛布、敷きパッド、寝袋、

消毒用アルコール（液体）、

使い捨て貼るカイロ、紙コップ、

使い捨てスプーン、割り箸（コンビニなどのもの）

☆ 必要でない物：

- ・女性用と子供用・背広の上着、コートなど
は需要がありません

活動紹介

まずお問い合わせください。 ☎078-271-3248 (*祝日は休み)



★高齢者、障がい者支援

主に高齢者、障がいのある方々への訪問活動やコミュニティ作りへの支援。レターボランティアによる交流をしています。

<活動日>

月曜日-10:00~15:00頃

訪問(住宅・病院・施設)

*第3月曜日 13:00~ *休止中

HAT 神戸脇の浜にて『脇の浜茶話会』



★野宿者支援

野宿したくない人が野宿しないですむように。今、野宿している人の人権がそこなわれないように。可能な選択肢を提供し本人の意見を尊重しつつ出来る限りのサポートをしています。

<活動日>

水曜日-19:30~22:30頃

夜まわり(第1水曜日は勉強会)

火・木・土曜日

昼食提供(小野浜公園にて)

火曜日-10:00~16:00

生活相談

木曜日-10:00~16:00

生活相談/物資提供

金曜日-10:00~16:00

土曜日-10:00~16:00

生活相談

*医療相談、さんぱつ、シャワー、洗濯は休止中

★外国人支援

日本で生活している外国籍の方々と交流を持ちながら、日本語を学ぶ場の提供。相談・関係機関への連絡・情報の提供等。※NGO神戸外国人救援ネットとも連携しています。

『日本語でこんにちは』 *休止中

<活動日>

木曜日-10:30~12:00&13:30~15:00

日曜日-13:30~15:00

☆なかやまてカフェ *休止中

野宿から居宅に移った方のための集い。

(第2水曜日 13:30~15:00)

☆中山手ミーティング YOU YOU *休止中

自分をみつめ、自分の生き方を考える

仲間の集まりです。気軽にお越し下さい。

(金曜日 10:30~12:00)

★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ バックアップしています ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★

*全グループ休止中です。

A.A アルコール依存症の方の自助グループミーティング

(火曜日 13:30~、水曜日 19:00~

土曜日 13:30~&19:00~)

F.A ご家族や友人にアルコール、薬物、ギャンブル、

買い物、ゲーム、摂食障害等さまざまな依存症の問題を持つ方のための自助グループ

(火曜 19:00~20:30)

NA 薬物依存症の方の自助グループミーティング

(木・金曜日 19:00~)

ナラノン 薬物依存症の人の家族のミーティング

(第2、4月曜日 14:30~)

家族の回復ステップ12 アルコール依存症者を家族や

友人に持つ方たちの集まりです。

(第2、4土曜 10:30~12:00)

*緊急事態宣言中はほとんどの取り組み(特に人の集まる取り組み)を休止していましたが、10月1日に宣言が解除され、炊き出しや夜回りが再開されました。ひとりひとりへの生活支援、相談も休むことなく継続しています。